

令和3年9月29日

生徒の皆さんへ

京都府立城陽高等学校

校長 畑中 正文

## 創立50周年 開校記念日について

10月1日は本校の開校記念日です。

本校は昭和47年4月1日に開校し、今年で創立50周年を迎えました。

昭和40年代後半は京都府南部の人口増加が著しく、高校の新設が待望されていきました。本校は府民の要請を受け、城陽の地に公立高校を設置すべく、昭和46年10月1日に京都府庁内に開設準備室が設けられ、この日が本校の開校記念日と定められました。グラウンド造成中に3基の古墳(宮ノ平古墳群)が発見されたため、開校当時のグラウンドは現在の半分の面積しかない状態のままのスタートとなりました。このような開校当初の困難を乗り越え、地域の発展と共に本校は50年の歳月を積み重ねてきました。卒業生は1万7千名を超え、さまざまな分野の第一線で活躍されています。

初代校長の村高 懐(ゆかし)先生は、「城陽は京都と奈良の中間点でもある。平城京と平安京という日本の二つの古い文化圏を結ぶ大和街道は、学校のすぐ西を通っていたとも想像されるし、古い文化圏を背負いながら新しい文化を創造することを学校の基本的な性格にできないだろうか」と述べておられました。その先生の強い気持ちが校歌の二番の歌詞から読み取れます。

創立50周年を節目に、生徒諸君一人ひとりが、気持ちを新たに、今後とも (1)知性を磨き (2)自らを律し (3)たくましく行動することに一層邁進し、城陽高校生としての誇りを抱きつつ、学業や部活動等をとおして充実した高校生活を送ってくれるよう期待しています。